

各地の話題 松島町

閑散期にブルーベリー トマト・イチゴ作業の空白期間解消

2025 年 8 月 22 日号掲載



松島町磯崎地区でトマトとイチゴの施設栽培を営む（有）サンフレッシュ松島では、作業の空白が生まれる夏季にブルーベリーを取り入れている。

同社は10月から翌年6月にかけてトマト、12月から5月にかけてイチゴの収穫作業がピークとなるが、従業員の業務に空白が生まれる7月から8月に収穫できる作物としてブルーベリーに着目し、2020年1月から栽培を始めた。ナーセリーポットに定植し、トマト栽培で用いるヤシガラ培養土と溶液を使用している。

同社代表取締役の内海孝則さんは「担当を一人配置し、収穫時期は手の空いた人を配置している。果樹栽培の経験はなかったが、養分と水分管理は従来のノウハウで問題なく行えている」と話す。

売価は生果と冷凍で、4000円/kg程度に定めている。生果は100グラム程度でパック詰めし、近隣の産地直売所等に出荷。冷凍果は地域のホテルへ販売している。内海さんは「ブルーベリーは冷凍で通年出荷できるのが強みだ。加工や彩りの用途で引き合いがある。面積当たりの収穫量を増加させていきたい」と話す。

【記事執筆】 宮城県農業会議

ブルーベリーを収穫する内海さん



ほ場の様子、約10㎡に300本栽培している



熟期のブルーベリー。「適宜の養液管理のおかげか、1.6m程度で玉揃いしている」と内海さん。

